

四極会寄附講義「会社研究」令和4年度 第7回目

令和4年6月1日(水) 13時10分

講師 東京四極会 理事長 奥川 隆生 氏(大学23回)

テーマ「社会は変わる 好機到来！」

講師の先生は、これまで大企業の役員を歴任され、現在2社の常勤顧問をされておられますが、企業人として様々なご苦勞をされた貴重な経験から、学生諸君に対し、次のように、これからの社会生活におけるヒントとエールを送られました。



長い人生いろんなことが起きる
健康に注意し、人を好きになる、穏やかな生活を送る、落ち込むことはない。

いま、これまでと違う社会になっており、皆さんにとってはチャンス到来である。

ヒント1 皆さんの人生は長い。

先輩の方々の生き方はこれからは必ずしも手本にならない。
働く期間も長くなるが、気持ちよく働かねばならない。
とにかくラフでいいから自分の人生設計をしよう。

ヒント 2 いろいろな経験をやる。することによって心が強くなる。

ヒント 3 いろいろな人と会う。

人と会った「引き出し」の数を増やすことが大事。

※講師の先生が、これまで、人生の重要な分岐点で出会い、一緒に仕事をした人として、小林喜光氏(現東京電力会長)と劉強東氏(京東集団 JD.COM 創立者・前 CEO)とのことを紹介されました。

ヒント 4 コロナ禍が突き動かした社会変化を読み取る。

家で仕事をするようになり、会社に入った新人は、先輩の顔が見られないようなことが起こる。新人はどういう会社かつかみづらいようになろう。私としては、人を大事にする会社であってほしいと考えており、家だけで仕事することは必ずしも正しいとは思っていない

一方、地方は、再評価され、どこからでも働けることになり、大分、九州からでもビジネス発信ができるようになる。

労働観が変わってくる。先進的な技術・考え方をもち企業が、地方から新しい産業を興すことが可能となる。その際、スピード感、素早い意思決定が大事。

ヒント 5 ビジネスをアジア市場視点でとらえる。

アジアは今後富裕層が増えることになりこうした視点が必要になる。

まとめ 皆さんが活躍するこれからの社会を考える

古いもの・同じことをしているものが壊れる。先輩がすることは必ずしも手本にならず、鵜のみにしないこと。

好奇心とスピードをつけること、ビジネスモデルで差が出ること、人間を大事にすること、変化を読み取る視点を大事にすること、アジアや世界を意識して行動すること、などできることから始めてほしい。

以上